

愛に生き

深川市立一已中学校 学校だより

令和5年1月31日

発行者：深川市立一已中学校 電話：0164-22-3341 FAX：0164-22-3653
http://ed.city.fukagawa.hokkaido.jp/ichiyanjh/index.html

真に生き

美に生きる

「スリム化」検討

校長 坂本 征人

標題は、1月7日の読売新聞の見出しです。日本中体連では、主催する全国大会の規模を令和9年度から縮小する方向で検討しています。実施競技や参加者を減らすことで、少子化が進むことへの対応に加え、準備や運営を担う教員の負担を軽減することもできます。（開催地の教員は大会運営や協賛金集めに追われ、近年は熱中症対策、感染症対策も求められています。）この春には一定の方向性が示される見込です。



また、学校からの参加を原則としてきた中体連大会ですが、ご存じのように今年度から、事前に申請すれば、「地域のスポーツクラブ」が参加することができるようになりました。同じように少子化の影響から、学校では部活動を維持できない状況があり、また、教員の「働き方改革」の観点から部活動の地域移行の取組が全国ではじまっています。（令和5年度から令和7年度までが改革推進期間となっています）

学校における部活動の厳しい状況については、国会や文科省の中央教育審議会においても指摘され、これまでスポーツ庁や文化庁においても、部活動の適正化に向けた改善方策や、地域との連携・協働、地域移行の方向性が示されてきました。

- 部活動については、学校の業務として行う場合であっても、必ずしも教師が担わなければならない業務ではない。（平成29年12月中央教育審議会）
- 地域で部活動に代わり得る質の高い活動の機会を確保できる十分な体制を整える取組を進め、環境を整えた上で、将来的には、部活動を学校単位から地域単位の取組にし、学校以外が担うことも積極的に進めるべき。（平成31年1月中央教育審議会）
- 部活動を学校単位から地域単位の取組とし、学校以外の主体が担うことについて検討を行い、早期に実現すること。（令和元年衆議院及び参議院文教科学委員会の付帯決議）
- 令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図るとともに、休日の部活動を望まない教師が休日の部活動に従事しないようにすること。（令和2年9月文科省）
- 学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン（令和4年12月スポーツ庁・文化庁）

部活動は、これまで生徒のスポーツ・文化芸術等に親しむ機会を確保し、生徒の自主性・主体的な参加による活動を通じて、責任感、連帯感を涵養し、自主性の育成にも寄与

（次ページに続きます）

